科目名 (Eng)	日本語特論Ⅱ(Japanese Language Seminar Ⅱ)								
担当教員	高橋 圭介								
対象学年等	学科・学年		授業期間・区分・単位数・時間数				分野	形態	学修単位科目
	一般科目コミ	5	前期	選択	1	(30)	一般	A	

目標基準との対応	
	福島高専の教育目標との対応：(F-1). (F-2).
	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：6).
	JABEE基準1(1)との対応：(f)

授業の概要と方針	卒業論文の執筆、編入学試験など、さまざまな場面において必要とされる文章作成能力を養成する。
到達目標	①自らの主張を展開するにあたって、適当な表現を選択し、文章化することができる。 ②他者の主張の問題点を指摘した上で、適切な代案を提示できる。 ③漢字・語彙・文法に関する知識を身に付け、それらを文章作成に応用できる。

授業計画

	週	授業項目	理解すべき内容	事前学習
前期	1	イントロダクション	授業で扱う内容について	前回の授業で自分自身が書いた文章をよく読み返してくること。また、課題が出た場合は必ず事前に実施しておくこと。
	2	小論文の演習１	問題点の把握	
	3	小論文の演習２	前回のフィードバック、小論文の要件	
	4	言語問題の演習１	文字・表記に関する問題	
	5	小論文の演習３	話し言葉と書き言葉、事実と意見、意見の述べ方	
	6	言語問題の演習２	語彙に関する問題、中間試験について	
	7	中間試験		
	8	小論文の演習４	中間試験の復習	テスト問題を持参。
	9	言語問題の演習３	文法に関する問題	前回の授業で自分自身が書いた文章をよく読み返してくること。また、課題が出た場合は必ず事前に実施しておくこと。
	10	小論文の演習５	要約のポイント、要約から主張へ(問題点の指摘)	
	11	言語問題の演習４	文章に関する問題	
	12	小論文の演習６	長め（80～120分、1000字～2000字）の小論文	
	13	小論文の演習７	前回のフィードバック	
	14	言語問題の演習５	敬語に関する問題	
	15	テスト返却、解説	テスト問題の解説	テスト問題を持参。

試験について	中間試験：授業時間中に50分の試験を実施する。期末試験：50分の試験を実施する。
評価方法	定期試験の成績を70%、課題及び平素の成績を30%として評価する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	授業でその都度紹介する。
関連科目	「日本語特論Ⅰ」
履修上の注意	日常的にさまざまな文章に触れ、自分が理想とする(書きたいと思う)文章のイメージを作り上げること。そしてそのイメージ(目標)を常に意識しながら授業に臨むこと。